

地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会  
(第26期・第8回)

議 事 要 旨

1. 日時 令和7年12月26日(金) 15:00~17:00
2. 会場 オンライン会議 (ZOOM)
3. 議題 (1) 谷本委員の話題提供と議論 (地球環境観測に関する最近の動向: 国際・国内、政策・社会利用)  
(2) 藪田委員の話題提供と議論 (持続可能な宇宙利用に向けた国内外の取り組み)  
(3) その他

4. 出席者

佐竹 健治、森口 祐一、藪田 ひかる

稲葉 俊哉、臼田 裕一郎、江守 正多、大久保 泰邦、川口 慎介、佐藤 薫、標葉 隆馬、鈴木 康弘、関村 直人、関谷 直也、高橋 桂子、谷本 浩志、中村 尚、新野 宏、原田 尚美、藤井 良一、益田 晴恵、谷田貝 亜紀代、山口 紀子、横山 広美

5. 配布資料

資料1: 谷本委員資料

資料2: 藪田委員資料

資料3: 山岡委員資料 (原子力規制委員会)

資料4: 大久保委員資料 (公開シンポジウム)

6. 議事

(1) 谷本委員から「地球環境観測に関する最近の動向: 国際・国内、政策・社会利用」という題で、資料1に沿って話題提供があった。地上や衛星による観測で、地球上の広範囲で継続的にデータを収集する重要性、それに関する国際協力の必要性、米国の現政権が引き起こしている問題、観測に基づく地球上の炭素排出・循環、それに関する省庁間や民間企業との協同などについて述べた。民間との協力の取り組みのきっかけ、米国の現状、省庁を超えた総合的な視点の必要性などについて質疑・議論があった。

(2) 藪田委員から「持続可能な宇宙利用に向けた国内外の取り組み」という題で資料2に沿って話題提供があった。プラネタリーディフェンス (宇宙防災) では、将来的に地球と衝突する可能性のある潜在的危険小惑星 (PHA) から国家や地球を守るための観測・技

術的な発展や倫理・法的な課題について説明があった。また、プラネタリープロテクション（惑星保護）については、地球の微生物で他の天体を汚染しない、もしくは他の天体の生命で地球を汚染しないという視点から、米国や日本で取り組まれている技術や指針について説明があった。これらの基準や外国での現状などについて、質疑や議論があった。

(3) 佐竹委員長から、欠席した山岡委員から提出された資料3について説明があった。前期に本分科会から発出した見解のフォローアップとして、学術会議から推薦した気象学の専門家と原子力規制庁の担当者との意見交換が継続していること、原子力規制庁で行っている図上訓練に上記の専門家が招待されて参加していることが報告された。

(4) 大久保委員から、資料4に基づいて、「地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」（仮題）の公開シンポジウム（あるいは学術フォーラム）を企画していること、主催は日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会であるが、本分科会にも共催となってほしいことが説明された。若干の質疑のあと、共催とすることが認められた。詳細については、今後メールで通知する。

以上